

山下家資料について

山下家資料約560余点は、明治以後、山下家の親戚筋に当たる倉科家により大切に保管されていた物であるが、平成6年夏、倉科家より寄贈され、当館の所蔵となった資料である。

山下家は、「高遠勤仕録」「臣下代々録」等によれば、延享2年（1745）山下友甫（佐野右衛門・祐誠）が、お坊主勤（四石二斗・二人扶持）として高遠藩内藤公に召し抱えられ、天明年代御代官に任ぜられたと記載されており、その後

山下高武（芳右衛門・為右衛門・勝右衛門）

山下元俊（勝右衛門・芳右衛門・軽舟・西丘）

山下元常（庄作・芳右衛門）

山下元賢（虎五郎・雪山）

と、明治の廃藩に至るまで続いている家系である。

いずれも若い頃には、藩内の書役として各種の文書の作成にも係わっており、長じては、地方巧者として知られ、藩内各郷の支配を任される代官役として活躍した。したがって、残されたこれらの資料は、高遠藩の地方支配の在り方を現代へ伝える貴重な文献である。

平成6年10月
高遠町図書館